

# 多彩な堆肥資源を じょうずに活用

## ■ 乾燥・猛暑のなかで、9種の比較試験

家畜糞も生ゴミも下水汚泥も、堆肥にすれば土壌を豊かにする宝の資源です。(財)日本土壌協会では、9種類の堆肥について、平成13年からいろいろな野菜で施用効果の試験を行なっています。平成16年は春まき夏収穫のニンジン。この年の梅雨から夏は乾燥・猛暑に見舞われ、ニンジンにとっては過酷な条件下での栽培で、根のひび割れ（裂根）が大発生しました。そのなかで、堆肥の効果はどのように現われたでしょうか。

## ■ 堆肥それぞれに特徴がある

堆肥は、右下の写真に示すように、生ゴミ堆肥4種と、パーク（樹皮）、下水汚泥、牛糞、豚糞、鶏糞です。ただし、同じ生ゴミ堆肥でも、UとKは家畜糞やオガクズを加えてつくっています。生ゴミは水分が多く酸素が不足しやすいため、高熱を発して急速分解する好気性菌の活動が低下しやすいものです。そこで、オガクズなどを混ぜて酸素を補給しやすくして分解を促しているのがUとKです。

各堆肥の成分を見ると、牛糞堆肥は敷料のワラやオガクズなどが入るので、豚糞堆肥や鶏糞堆肥と比べて、窒素などの成分は少なくなります。また、生ゴミと牛糞でつくる生ゴミ堆肥K、下水汚泥堆肥も窒素が少なめです。

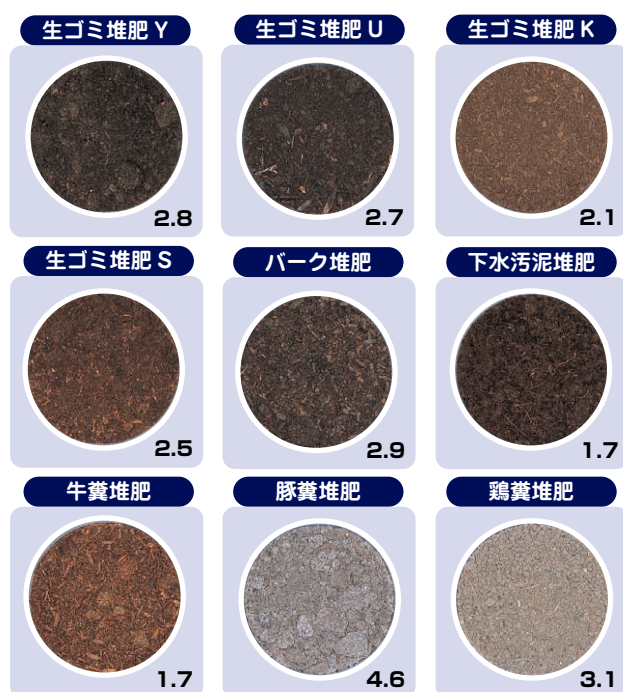
この試験では、窒素・リン酸・カリの全施用量を10a当たりそれぞれ15kgとし、対照区の化学肥料区は化学肥料だけで15kgとなるようにして



乾燥・猛暑のもとでニンジンの堆肥試験がスタートした



9種の堆肥区と化学肥料区のニンジン収穫調査



9種の堆肥—数値は窒素含量（乾物に占める%）